

スポーツボランティア・ゲーム

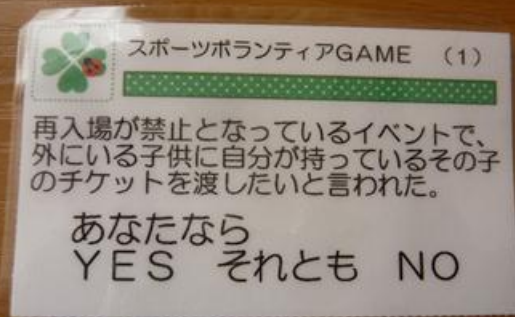
最初に一人二分の自己紹介をしましょう
最初に名前、次にやっているスポーツボランティア

それでは、ボランティアゲームに
ついて説明します



あらかじめ決められたリーダーは、メンバーに「YES・NOカード」を一枚ずつ渡してください。(リーダーはできる限り中心に座りましょう)
続いて、おはじきの入ったケースを用意し、読み上げカードを1番から20番まで、順番に読み上げてください
(グループは5・7・9名の奇数の人数で構成します)

スポーツボランティア・ゲーム



読み手はカードの一番から順番に、内容を読み上げて、最後に「YES」か「NO」かを聞いてください
(考える時間を1分程度とってください)

メンバーは、一問ごとにリーダーの掛け声でカードをテーブルの上にだします (出すまではみせない事)

読み手はだされたカードで多い方の回答者に、おはじきを一個ずつ渡し、記録用紙に「YES」「NO」の数を書いてください

一問がおわったら、次のカードを読み上げて最後の20問まで、すすんでください
(読み手は決して自分の意見は言わないように)

最後の問題が終わったら、もっとも「おはじき」の多い人の名前を確認しておいてください



スポーツボランティア・ゲーム

スポーツ・ボランティアゲーム(1) について、補足します

このゲームは実際に全国各地のスポーツのボランティア活動の現場で起きていることです。

まずは、各グループの最優秀メンバーに拍手をお願いいたします。実際に活動が始まればみなさんについていけば、心配なしですね。

さて、実は今回の問いの大半には、実は正解はありません。なぜなら、どうルールを作るか、だれが対応するかは、その都度運営する主催者が決めることが多いからなのです。では、ふたつめのゲームです。



スポーツボランティア・ゲーム

スポーツ・ボランティアゲーム(2) について、説明します

読み手の方は、さきほど記録した回答で、もっとも回答が拮抗した質問をひとつ選んでください。

次に、その質問の内容を再度読み上げ、なぜメンバーが「YES」、あるいは「NO」と回答したのかを、聞いてください。(回答はいくつでも結構です)

読み手はその回答を「記録用紙」に、簡潔に箇条書きで記入してください。

全員の回答が終わったら、メンバーの回答を聞いて、「YES」「NO」を変更する人がいるかどうかを確認してください。

(回答者は違う意見の人に話すのではなく、あくまで読み手に対して回答すること)

スポーツボランティア・ゲーム

最初のゲームは、とっさの判断力をみがくことや、実際にボランティアの活動の現場で発生する「困った事例」を知ることにより、最終的には参加するイベントでのルールをあらかじめ確認し、備える意識を高めることにつなげます。

二番目のゲーム(意見交換)では、ひとつのチームで話し合う事で合意を形成したり、さまざまな見方があることを知ることが大切です。リーダーの研修などに役立ちます。

